

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
ES23C004		すべての個性を活かす教育環境の構成(Research on School Environments for Inclusive Education)					教職実践コース科目													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	1	大学院教育学研究科	前期		氏名 今村裕、古庄一夫、牧英治郎 E-mail imamurayutaku@oita-u.ac.jp furusyo@oita-u.ac.jp e-maki@oita-u.ac.jp 内線 6135														
授業の概要	本授業においては、すべての個性を活かす教育環境の構成に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 個別の発達状況や特性に関するアセスメントの理論について深く理解する。																				
目標2 子どもの個人差を踏まえて教育環境・支援体制を構築するための実践的知識について深く理解する。																				
目標3 ユニバーサルデザインの視点による学校・授業づくりに関する実践的知識について深く理解する。																				
目標4 発達障がい児への対応等の学校現場の事例を題材として、現状の課題を発見する。																				
目標5 発達障がい児への対応等の学校現場の事例を題材とした現状の課題について、具体的な対応策を立案・検討する。																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 授業テーマに関する学校現場の課題の理解																				
2 発達障がいのある児童生徒の特性理解																				
3 ユニバーサルデザインの教育環境づくり - 概論																				
4 ユニバーサルデザインの教育環境づくり - 教室環境や授業実践の工夫																				
5 特別支援教育の視点による学校・学級づくり																				
6 個に応じた指導に関する事例研究 - 衝動性・多動性への対応																				
7 個に応じた指導に関する事例研究 - 対人関係の構築に困難がある児童生徒への対応																				
8 個に応じた指導に関する事例研究 - 不注意な行動が多い生徒への対応																				
9 通級による指導を活用した教育実践 - 制度の理解及び小・中学校の実践																				
10 通級による指導を活用した教育実践 - 高等学校の実践																				
11 交流及び共同学習の推進 - 意義の理解と先進校の取組の分析																				
12 交流及び共同学習の推進 - 自己の取組の省察と改善																				
13 障がいのある児童生徒の保護者との関係づくり																				
14 障がい者の自立と社会参加 - 障がい者の就労支援																				
15 授業のまとめと振り返り																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	調べ学修、プレゼンテーション、ペアワーク、ロールプレイ				工夫	その他の													
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教員が提示する事例等について、関連資料を調べたり、自分の意見を整理したりする。																		
	事後学修	演習において討議した内容を整理し、個人の視点を明確にするとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して到達点を整理する。																		
教科書	特になし。授業中に指示する。																			
参考書	小学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説総則編 中学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説総則編 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加等)	70%																		
	最終レポート(本授業において学んだことや今後解決すべき課題等)	30%																		
注意事項	本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。																			
備考	現職院生が実践経験の中から個に応じた指導に関する事例等について紹介し、学部卒院生との討論やペアワーク、思考ツールの活用等のアクティブラーニングの手法を取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。																			
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	古庄一夫：大分県立特別支援学校及び大分大学附属特別支援学校教員、指導主事 牧英治郎：大分県公立小学校及び大分大学附属小学校教員、指導主事
実務経験を いかした教 育内容	学校の実態に応じた事例検討及びその対応・評価における課題の析出と対策の立案。